

しっかり準備しよう

事業所での防災訓練の様子

港区防災センターで
震度7を体感中



水消火器を使って消火訓練



研修会で非常食を試食しました

防災担当者研修を開催しました

みなと福祉会 防災委員長 田畑 茂和

みなと福祉会の防災担当者会議ができて2年目を迎えました。毎月1回定期的に会議をおこなっています。年間計画にもとづく各事業所での避難訓練や消火訓練などの状況を伝えあい、情報の共有を図っています。また、年2回おこなう防災担当者研修について、どんな内容の研修が良いか、講師はどんな人が良いか、実際に役立ち実践できるものはないかなどを話し合う場にもなっています。

そんな中で、今年1回目の防災担当者研修を7月9日におこないました。今回は、「第7回きょうざれん東海ブロック被災地視察研修」に参加した職員の報告を中心にした研修でした。（詳細の一部を5ページで紹介）それぞれの所属事業所の視点から具体的に感じてきたことを交流しました。また、各事業所に備蓄してある非常食を1品ずつ持ち寄り、試食しました。実際に、食べてみることも大事なことだと思いました。

最後に、グループワークで「現場における防災対策の優先順位」を考えました。利用者の安全確保。避難場所の確保。薬や物資の確保。職員間の情報伝達や情報収集。避難経路・移動手段の確保。家族との対応。地域の方との連携・・・など、たくさん課題がだされました。事業所の環境や対象者、人数、時間帯によっても対策の順位が異なることも確認しあうことができ、とても有意義な研修になりました。

「防災・減災」に対する防災担当者会議の役割

防災担当者会議は、各事業所の担当者が交流・連携して課題を共有し、法人全体で防災意識と防災力を高めていくことを目的にしています。そのような視点から、各事業所の職員会議などでも防災に関する情報を積極的に報告してもらっています。年々、みんなの防災への意識が高まってきているように感じています。

みなと福祉会としては、いかなる場合でも福祉事業を継続していかなければなりません。万一、大きな被害にあった場合でも事業の再建が速やかにできるようなプロセスを準備していくことも、これからの大きな課題になっています。



6/14~15 被災地視察研修から



震災当時の姿のままの高野会館
建物の中に入り痛々しさを実感しました



南三陸町の防災庁舎の近くには今も
たくさんのお花が供えられていました



「備えようによって災害は防げる」 という言葉が印象的でした

児童デイサービス さざなみ 大村 梨菜

東日本大震災から7年の月日が経ちました。

「復興」という言葉をよく耳にする場面がありましたが、実際に被災地視察研修に行かせていただき、気仙沼市・南三陸町の街並みを見た時、住民のみなさんの姿や活気のある街とっていました。しかし、重機がいたる所にあり、町全体を盛り土で高くしているところをバスの中から見た街並みは、私の想像をはるかに超え、「震災前にあった街並みはいつ戻ってくるのだろうか・・・」と感じるほどまだまだ復興は進んでいないのが現実でした。

2日間の研修で様々な場所も視察させていただき、たくさんの方々との出会いの中で「防災」に対する意識が自分の中で強くなっていることも実感できました。

私たちのいる港区は海拔が0m地帯のため、津波の被害に遭う可能性が高いと言われています。現地の方々のお話の中で「予測ができて災害は防げない。でも、備えようによって災害は防げる。」という言葉が印象的でした。

南海トラフ地震が来る！津波が来る！と予測はできます。だからこそ、日々の防災訓練や研修の積み重ねは大切になります。1人ひとりが防災に対しての意識を日頃から持つことで、災害を未然に防ぎ、被害を少しでも減らすことができるのではないのでしょうか。



ホームを利用する仲間の 命を守るために

みなとホーム 丹下 裕希

宮城県気仙沼市、南三陸町の被災地研修に行ってきました。私はグループホームに勤務しておりますので、ホーム職員の視点から被災地を見てまいりました。

現地では、7年という月日の経過とともに海岸沿いには高く土嚢を積まれた防潮堤がそびえ立ち、被災前と現在では景観がすっかり変わってしまいました。真新しい道路は、国が推進している復興事業として整備されておりました。

被災を受けた現地の職員より、いちばん苦労したのは利用者の薬の問題であったとの報告を受けました。みなとホームでも現在、薬の数日分の備蓄が課題となっていますが、そのことをより切実に感じました。また、町内等近隣住民との協力体制の必要性、ライフジャケットの装備、すべてのライフラインの停止を想定した情報伝達の確保などは被災地で見聞きしたなかでも、とくに今後の課題としてあげることができます。

みなとホームは、名古屋港からもほど近く海拔の低い地域にあり、津波など水害の影響がとくに強く懸念されております。ホームを利用される仲間の命をどう守っていくか、ホームの防災担当の職員として被災地で見聞きしたことを、今後備えて生かせるようにとりくんでいきたいと思っております。